

茨城県 教頭会会報

発行者
茨城県小中学校教頭会
会長 根本 重文

事務局
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき
電話 029-269-2711



大震災をのりこえて
く春の運動会く
(北茨城市立大津小学校)



「教育界の相転移」

茨城県小中学校教頭会

副会長 蘭部 正巳

物質には三つの相がある。固相・液相・気相である。物質の本質としては何も変わらないのであるが、水の場合は気相を水蒸気、固相を氷と呼び、違う物

として扱っていたのであろう。さて、相は温度と圧力によって決まる。一般に温度が高く、圧力が低いと気相に入り、温度が低く圧力が高いと固相に入る。その程度は物質により決まっている。物質の相が変わることを相転移という。水は一気圧だと零度と百度で相転移が起こる。圧力を変えると相転移する温度も変わってくるという按配である。

普通私たちは温度が上がるにつれ、固相から液相へ、液相から気相へという転移をイメージするが、圧力によっては固相から直接気相へ(または気相から直接固相へ)転移するという現象もある。二酸化炭素↓ドライアイスなどはその例である。

非常に興味深いのは、三重点である。三つの相が重なっている点であり、そこから温度や圧力がほんのちよつと変化しただ

けで、三つの相のどれにでも変わらうる状態である。

さて最近私たちを取り巻く(広い意味での)環境が、この三重点に乗っかっているようなイメージがぬぐえない。大地震やゲリラ豪雨・竜巻などの自然環境然り。異常な事象での事件や事故・互いの確執を思い知らされるような人間関係然り。国のリーダーがイニシアチブが取れない事態や新興勢力の下、大きく方針を変えざるを得ない日本経済など政財界然り。そして教育界もまた相転移のさなかにあると言えるのではないだろうか。現状をどう変えていくか、それは私達副校長・教頭ひとりひとりのちよつとした仕掛けが原因で、大きく変わらうる可能性があるということである。

今年度の茨城県小中学校教頭会は、「二人一人が輝き 未来に羽ばたく力を育てる」という研究テーマのもと、十一月二十二日に研究大会日立大会が開催される。各提言者からどのような仕掛けが発表されるか楽しみである。

論説

豊かな心を育てる教育活動の

推進と教頭の役割

地域・保護者・学校の連携による

学校行事を通して

東海村立照沼小学校

萩谷 隆文

はじめに

学校を取り巻く環境が大きく変化する中、子どもたちにも様々な変化が生じてきている。

このような中で、児童に他人を思いやる心や感動する心などの豊かな心の育成をいかにしなければならぬ。そのためには、地域や保護者等と連携して行う教育活動でいろいろな人々との関わりを通して身に付けることが重要だと考える。

以下、教頭としてのどのように関わっていけばよいか運動会の実践を通して述べる。

第50回運動会を通じた実践

一 学校教育目標の実現

学校教育目標に「豊かな心の育成」「地域との連携」が

理解を求めた。

三 地域・保護者・関係機関との連携

地域と学校が離れ、しかも会場が校庭ではないため保護者・地域・関係機関との連携は欠かせない。自治会長との連絡・調整、保護者との打合せ、会場所有機関との折衝等、教頭の関わりは多くあった。

現在本校は隣の小学校を仮校舎としている。教育目標を達成するためには、地域から離れているので、より地域・保護者に身近に感じてもらうため学区内の民間のグラウンドを借り、職員の英知と創造を結集して取り組んだ。

二 情報発信

学校と学区が離れているため学校の様子がなかなか地域に伝わりにくい。そこで学区全世帯に学校たよりを発信し学校の様子を伝えている。

今回の運動会は例年とは趣を異にするので、会場の変更と今回の運動会に対する学校の思いや意義を「学校たより」や「ホームページ」で発信し、

四 運動会種目の変更

起案の段階から種目決定に至るまで全職員のアイディアが必要だった。共に考え普通の運動会ではできないと思われる種目を考え出した。

その結果、全面芝のグラウンドを有効に使った種目が出来上がった。だが、活動用具の調達とその準備には一工夫が必要だった。特に、会場と体育倉庫が2キロメートル近く離れているため準備には時間と労力を費やした。

また、種目以外のアトラクションにも工夫が取り入れられた。児童と教員・保護者の知恵の結晶であった。



特設ステージ上

五 学校評価の実施

行事ごとに評価は実施している。教師・児童・保護者はもとより、今回のような場合には参加された地域の皆様にもアンケート等を行った。

実践の成果

- 次のような成果が見られた。
○児童の周りへの感謝の心
○教師のコーディネート力の向上
○児童・教師の成就感・達成感
○保護者等の協力心の高揚
○地域の学校に対する関心度の向上

おわりに

今回の行事を通して児童に自分たちの周りの人々への感謝の心やどんなに困難な状況でも運動会をやれたんだという達成感・満足感が生まれた成果は大きい。

また、学校教育目標の具現化のため、教師集団が学校を取り巻く人々と共に活動できたのは大きな成果である。

教頭としても関係機関や地域・保護者に積極的に関わることで、豊かな心育成のための活動を充実させることができた意義は大きい。

専門部だより

研究部

研究部では、第九期全国統一研究主題「豊かな人間性と創造性をはぐくむ学校をめざして」(二年次)のもと、本県の研究主題である『児童生徒一人一人が輝き、未来にはばたく力を育てる教育』に取り組みます。研究の三つの柱である継続性・協働性・関与性を念頭に置き、自ら研究主体としての力量を高め、学校現場に役立つ実践的な研究を推進します。具体的には、①児童生徒の健全育成、②児童生徒が楽しく学習し、長所が認められる場の設定、③自分の可能性と未来を信じて努力を重ねる児童生徒の育成です。また、研究大会が全国は東京大会、関プロは群馬大会、県は日立大会が開催されます。特に日立大会は、震災の影響で日立市民会館が使用できないので日立シビックセンターでの開催となります。茨城県の副校長・教頭が多数参加し、研究に励み、一つの工夫や成果を参考に各自持ち帰り、実践し、県内各小中学校の児童生徒の豊かな人間性と創造性をはぐくんでいきたいと考えます。ご協力よろしくお願いたします。

調査部

調査部は、「学校管理運営についての諸調査、副校長・教頭職のあり方と福利厚生等についての調査を実施し、その問題点を解明するとともに学校運営の充実と活性化を目指す要請活動のための資料を作る。」ことをねらいとして活動していきます。調査内容や項目について、より実態に即した内容になるよう検討し、見直しました。現在、副校長・教頭の置かれている立場を的確に把握するように努めるとともに、激務といわれる副校長・教頭の処遇改善に役立つ調査を実施します。調査結果については、各項目ごとに集計し、分析・考察の後、全体的な傾向を資料にまとめ配布します。

○主な事業計画

- 五月 郡市部長会議
- 六月 ブロック長会議
- 七月 調査用紙等の配布
- 八月 市町村単位での集計
- 九月 各ブロックでの集計
- 十月 郡市部長会議
- ブロック長会議
- 十一月 分析・考察
- 十二月 調査資料の配付

以上の事業計画のもとに活動します。皆様のご協力をよろしくお願いたします。

広報部

広報部は、年四回の会報発行を、担当ブロックが編集して、県内各地区の教頭会や専門部の活動状況・課題等をお知らせしています。

特集 一五八号 水戸
九月 一五九号 県北
三月 一六〇号 県南
三月 一六一号 県東

今年度も各ブロックがタイムリーな情報を収集して、会員に読まれる会報をめざし、取り組んでまいりたいと存じます。執筆の機会を得た会員の皆様におかれましては、ぜひ、最新の情報の提供をお願いいたします。

広報部としても、会員の皆様から得た情報を多くの会員のために精一杯努力して編集しますので、必ず一読する余裕を持つていただければ幸いに存じます。校務ご多用の中ではございますが、近年情報を得る方法が多様化しており、日々の仕事においても、自らを振り返る機会もなくなり、情報を整理する時間もなくなくなっているのが昨今の状況ではないかと思えます。そんな中で考えていることをぜひ原稿としてお寄せください。お待ちしております。

法制部

法制部は、学校管理や学校運営上の諸問題について、法的根拠・解釈等の研修を行い、その結果を会員全員に配付し、学校運営に生かすことをねらいとしています。

五月二十四日の郡市部長会を皮切りに、六月から八月にかけて、各郡市、各ブロックで研修会を開催し、学校運営上の諸問題を持ち寄り、検討します。その研修内容をもとに、本年度は、副校長会法制委員会と連携し、十月下旬を目標に、合同で研修会を開催できるよう調整を進めています。研修会では、県教育庁義務教育課から講師の先生をお招きし、現場で直面した事例をもとに、適切な対応の仕方等についてご指導をいただきます。最終的には、「学校運営のための法制問答集」として、「学校長必携三十集」「教頭会法制研修会記録」を合本し、全会員に配付することになります。

○主な事業計画

- 六月～八月 各郡市研修会
- 九月 法制小委員会
- 十月 県校長会との合同法制研修会
- 十月 法制小委員会
- 十一月 法制小委員会
- 十二月 「学校運営のための法制問答集」配付

要請部

要請部は、「学校運営の充実と活性化を図るため、副校長・教頭が管理職に誇りと希望を持ち、自らの資質の向上に努めるとともに、学校における教育条件の充実と促進を図りつつ、副校長・教頭として十分な職務遂行を図るための処遇改善を求める要請活動をする。さらに、副校長・教頭としての連帯感を高める。」ことをねらいとしてこの一年間活動して参ります。

○主な事業計画

- 五月 郡市要請部長会議
- 六月 ブロック長会議
- 七月 全国要請推進部長会
- 校長会と要請書作成
- 二十五年度の要請事項について
- 十一月 ブロック長会議

要請事項に関しては、会員のみなさまの抱えている課題、改善策等のご意見を生かし、社会情勢や歴史的並びに社会的な背景を十分考慮しながら検討し、要請事項を作成して参りたいと思えます。学校教育の課題は山積みですが、われわれ副校長・教頭が、自らの力量を高め、強いリーダーシップを発揮して魅力ある学校が実現できるよう、要請事項の充実に努めて参りたいと思えます。

先輩教頭から 感謝に満ちて

前北茨城市立中妻小学校教頭
鈴木洋子

教職人生を教頭職で修了させていただき、しみじみと幸福感を味わうと同時に感謝の気持ちに満たされておりです。

退職後、地域の皆様から、「ご苦勞様。」
「顔を見られなくなって寂しいよ。」

と、ありがたい言葉を頂戴し、教頭職が学校と地域のパイプ役であったことを改めて感じました。教頭職でなかったら、関わりを持てなかつたであろう方々。教頭職であったからこそ、深い結びつきでお付き合いをしていただいた方々。地域の皆様の広い輪の中に招いていただいたことは、これからも大切にしていきたい私の宝物です。

退職後の最大の不安は、学校以外の社会に自分が適応しているかどうかと云うことでした。朝早くから夜遅くまで、そして、休日さえも学校内で仕事に埋もれた三十八年間。学校以外の社会に関しては、無知同然です。しかし、月日がたつにつれ、その不安も少しずつ薄らいでま

考えることが多い毎日です。退職して新しく始めたことがあります。

書道を習い始めました。筆を持ち、墨の香りに包まれながら、無の境地で書を練習する時間は、今まで味わったことのないぜいたくな至福の時です。

また、幸いにも、中学校で英語を教える仕事を頂きました。毎晩、教材作りが楽しくて夢中になっていきます。明日、生徒達がどんな反応をするか、ワクワクします。期待通りに生徒達が喜々として乗ってくると、「よしっ！」

と、心の中で手をたたき、最高の満足感に満たされます。

授業以外にも種々雑多の仕事に追われた教頭時代を振り返れば、純粋に教える喜びを味わえる今が、なんと幸せなことか。教員になった当初味わっていた教える喜びを、退職してまた味わえる機会に恵まれたことに感謝する毎日です。

最後になりましたが、こうして無事定年退職ができましたのは、教頭職の皆様から、多くのことを教えていただき、支えていただいたお陰なのです。ありがとうございました。皆様のご健康とご活躍を祈念いたします。

郡市だより

高萩市

高萩市教頭会は、小学校五校、中学校四校の会員十名で構成されている。

本年度は、三名の新会員を迎え、会員相互

の緊密な連携によって職能の向上を図り、円滑な学校運営に努め、市の目標である「萩っ子」の育成のための教育に寄与するために活動を展開している。

月一回の定例研修会では、市教育委員会の教育長や指導主事から指導・講話をいただきながら連携を密にし学校運営の実践的研修と情報交換を行っている。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会・研修会
- 五月 市定例教頭研修会
- 六月 市定例教頭研修会
- 七月 市定例教頭研修会
- 八月 全国教頭会研究大会参加
- 九月 市定例教頭研修会
- 十月 市定例教頭研修会
- 十一月 北茨城市との教頭研修会
- 十二月 関プロ教頭研究大会参加
- 一月 市定例教頭研修会
- 二月 市定例教頭研修会
- 三月 市定例教頭研修会

水戸市

水戸市教頭会は、小学校三十三校、中学校十三校、会員数五十六名で構成されている。

本年度は、新会員十一名を迎え、会員相互の緊密な連携によって職能の向上を図り、学校運営の合理化に努め、学校教育の発展に寄与することを目的として、活動を展開している。

定例の研修会では、今日的教育課題や、教頭としての実務力向上を目指す内容の研修、学校運営上の諸問題や法規について、提案者を事前に決め、外部講師を積極的に招聘して、計画的に取り組んでいる。

本年度の主な活動

- 四月 組織作り
- 五月 市教頭会総会・研修会
- 六月 市教頭会定例研修会
- 七月 市教頭会管理運営研修会
- 八月 市教頭会定例研修会
- 九月 全国教頭研究大会参加
- 十月 市教頭会定例研修会
- 十一月 関東ブロック研究大会参加
- 十二月 中央ブロック教頭研修会
- 一月 市教頭会定例研修会
- 二月 市教頭会定例研修会

笠間市

笠間市教頭会は、小学校十四校、中学校七校の会員二十一名で構成されている。

本年度は六名の新会員を迎え、会員相互の連携協力を図りながら、教頭としての資質向上をめざして、研修の充実を図っている。

定例の研修会を中心に、校長会・教務主任会と連携した学校管理運営研修会、教頭会研究発表会を開催している。定例の研修会では、毎回市教育長の講話をいただき、学校の管理運営や教頭の職務についての研修を重ねている。また、学校運営上の諸問題解決のための研修や情報交換を行うなど、より実践的な研修となるよう取り組んでいる。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会・研修会
- 五月 定例研修会
- 六月 定例研修会
- 七月 定例研修会
- 八月 学校管理運営研修会
- 九月 定例研修会
- 十月 市教頭会研究発表会
- 十一月 県教頭会研究大会
- 十二月 定例研修会

常陸大宮市

本年度、常陸大宮市小中二十校二十名の内七名の新会員が入り、とても新鮮な雰囲気の中、教頭会が発足した。

そして、月一回の定例研修会を旧町村五地区順番で開催している。その中で会員相互の連携や職能の向上に努めている。

毎回、市教育長の指導講話と情報交換を実施し有意義なものとなっている。また、七月末には、市教頭会法規研修会、学期毎に一回実務研修会を開催し、教頭としての実務力向上のための研修に工夫・努力している。

本年度の主な活動

- 四月 定期総会・研修会
- 五月 定例研修会
- 六月 定例研修会
- 七月 定例研修会
- 八月 実務研修会（講話）
- 九月 法規研修会（講話）
- 十月 学校管理運営研修会
- 十一月 定例研修会
- 十二月 実務研修会（地域学習）
- 一月 定例研修会
- 二月 定例研修会
- 三月 実務研修会（講話）

大子町

大子町教頭会は小学校七校、中学校五校の会員十二名で構成されている。

本年度は、四名の新会員を迎え、会員相互の緊密な連携によって、教頭としての資質向上に努めている。

月一回の定例研修会を十二校順番に会場として、それぞれの教育環境の様子を知ることができ。また、会場の校長講話や教育長講話をいただき、さらに、会員が月別に教育課題について発表・協議し、学校運営上の諸問題解決のため、研修や情報交換を行っている。

本年度の主な活動

- 四月 町教頭会総会・研修会
- 五月 第一回町教頭会研修会
- 六月 第二回町教頭会研修会
- 七月 第三回町教頭会研修会
- 八月 第四回町教頭会研修会
- 九月 町学校経営研究発表会
- 十月 第五回町教頭会研修会
- 十一月 第六回町教頭会研修会
- 十二月 第七回町教頭会研修会
- 一月 第八回町教頭会研修会
- 二月 第九回町教頭会研修会
- 三月 第十回町教頭会研修会

鹿嶋市

鹿嶋市教頭会は、小学校十二校中学校五校、会員二十一名で構成されている。鹿嶋市教育基本計画（後期）の重点施策を受け、鹿嶋市教育会教養部教頭部会として、主題を「豊かな人間性と創造性をはぐくむ学校をめざして」とし、目標を

「児童一人一人が輝き、未来にはばたく力を育てる教育」として、教育委員会の指導と伝達を頂き、協力し合い、意見を出し合いながら、鹿嶋市の子ども達のために研修している。

本年度の主な活動

- 四月 定例研修会
- 五月 定例研修会
- 六月 定例研修会
- 七月 定例研修会
- 八月 全国教頭会参加
- 九月 定例研修会
- 十月 定例研修会
- 十一月 定例研修会
- 十二月 県教頭会代表者発表
- 一月 定例研修会
- 二月 定例研修会
- 三月 定例研修会

龍ヶ崎市

龍ヶ崎市教頭会は、小学校一四名、中学校七名、会員数二十一名で構成されている。本年度は、六名の新会員を迎え、資質の向上を図るために、会員相互の連携を深めながら、学校教育の役割と今日的課題の解決に向けて、副校長、教頭としての研修を中心に活動を展開している。

定例研修会では、学校運営上の諸問題について提案発表を行い、意見交換や情報交換をしながら課題解決に向けて討議している。さらに、市教委、学校長会、教務主任会と連携を密にし、教育環境の整備等についても取り組んでいる。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会
- 五月 定例研修会
- 六月 県教頭会総会
- 七月 定例研修会
- 八月 全国教頭会研究大会
- 九月 定例研修会
- 十月 定例研修会
- 十一月 学校運営研究協議会
- 十二月 定例研修会
- 一月 定例研修会
- 二月 定例研修会
- 三月 定例研修会

守谷市

守谷市教頭会は、小学校九校、中学校四校の会員十三名で構成されている。

本年度は五名の新会員を迎え、新会長を中心に会員相互の連携により、教頭としての資質向上に努めている。

月一回の定例研修会では、教育長・指導室長の講話及び指導をいただきながら、学校運営上の諸問題の解決のために研修や情報交換を行っている。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会
- 五月 市定例教頭研修会
- 六月 市定例教頭研修会
- 七月 市定例教頭研修会
- 八月 市三者合同研修会
- 九月 市定例教頭研修会
- 十月 市定例教頭研修会
- 十一月 市定例教頭研修会
- 十二月 市定例教頭研修会
- 一月 市定例教頭研修会
- 二月 市定例教頭研修会
- 三月 市定例教頭研修会
- 四月 市三者合同研修会
- 五月 市定例教頭研修会
- 六月 市定例教頭研修会
- 七月 市定例教頭研修会
- 八月 市三者合同研修会
- 九月 市定例教頭研修会
- 十月 市定例教頭研修会
- 十一月 市定例教頭研修会
- 十二月 市定例教頭研修会
- 一月 市定例教頭研修会
- 二月 市定例教頭研修会
- 三月 市定例教頭研修会

かすみがうら市

かすみがうら市教頭会は、小学校十三校、中学校四校、会員十八名で構成されている。

本年度は新会員五名を迎え、会員相互の緊密な連携によって職能の向上を図り、学校運営の合理化に努め、学校教育の発展に寄与することを目的として、活動を展開している。

会員は、研究部、調査部、広報部、要請部、法制部のいずれかの専門部に所属し、研修を進めている。また、市教育委員会からの指導をいただきながら、実践的な研修となるよう取り組んでいる。

本年度の主な活動

- 四月 定例研修会(二回)
- 五月 定例研修会
- 六月 定例研修会
- 七月 定例研修会
- 八月 全国教頭会研究大会参加
- 九月 学校運営研修会発表会
- 十月 定例研修会
- 十一月 定例研修会
- 十二月 定例研修会
- 一月 定例研修会
- 二月 定例研修会
- 三月 定例研修会
- 四月 定例研修会(二回)
- 五月 定例研修会
- 六月 定例研修会
- 七月 定例研修会
- 八月 全国教頭会研究大会参加
- 九月 学校運営研修会発表会
- 十月 定例研修会
- 十一月 定例研修会
- 十二月 定例研修会
- 一月 定例研修会
- 二月 定例研修会
- 三月 定例研修会

古河市

古河市教頭会は、小学校二十三校、中学校九校、会員三十五名で構成されている。

本年度は、新会員六名、他市町からの転入者三名を迎え、「一人一人を生かす魅力ある学校づくりをめざして」をテーマに、教頭としての資質の向上を図るため、研修の充実に努めている。

定例の研修会では、毎回テーマを決めて提案発表を行い、会員相互の研修が深まるよう努めている。また、市教育委員会教育長より講話をいただくなど、教育委員会との連携を密にしている。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会・研修会
- 五月 市教頭研修会
- 六月 市教頭研修会
- 七月 市教頭研修会
- 八月 全国教頭会研究発表大会
- 九月 市学校運営合同研修会
- 十月 市教頭研修会
- 十一月 市教頭研修会
- 十二月 市教頭研修会
- 一月 市教頭研修会
- 二月 市教頭研修会
- 三月 市教頭研修会
- 四月 市教頭会総会・研修会
- 五月 市教頭研修会
- 六月 市教頭研修会
- 七月 市教頭研修会
- 八月 全国教頭会研究発表大会
- 九月 市学校運営合同研修会
- 十月 市教頭研修会
- 十一月 市教頭研修会
- 十二月 市教頭研修会
- 一月 市教頭研修会
- 二月 市教頭研修会
- 三月 市教頭研修会

筑西市

筑西市教頭会は、小学校二十校、中学校七校、会員三十名(副校長二名)で構成されている。

本年度は七名の新会員を迎え、会員相互の連携・親睦を図りながら副校長・教頭としての資質向上に努めている。

本教頭会では、「生きる力をはぐくむ開かれた学校づくりの推進と教頭の在り方」を中心課題として研修を進めている。毎月開催する定例教頭研修会では、より実践的な研修内容になるよう、学校運営上の諸問題や法規について、提案者を事前に決めて計画的に行っている。

本年度の主な活動

- また、今日的教育課題や、教頭としての実務力向上を目指す内容の研修には、市教育委員会等からの外部講師を積極的に招聘して取り組んでいる。
- 四月 定例教頭研修会
- 五月 定例教頭研修会
- 六月 定例教頭研修会
- 七月 定例教頭研修会
- 八月 全国教頭会研究大会
- 九月 市学校運営合同研修会
- 十月 市教頭研修会
- 十一月 市教頭研修会
- 十二月 市教頭研修会
- 一月 市教頭研修会
- 二月 市教頭研修会
- 三月 市教頭研修会
- 四月 定例教頭研修会
- 五月 定例教頭研修会
- 六月 定例教頭研修会
- 七月 定例教頭研修会
- 八月 全国教頭会研究大会
- 九月 市学校運営合同研修会
- 十月 市教頭研修会
- 十一月 市教頭研修会
- 十二月 市教頭研修会
- 一月 市教頭研修会
- 二月 市教頭研修会
- 三月 市教頭研修会

常総市

常総市教頭会は小学校十四校、中学校五校、会員数二十名で構成されている。

本年度は、新会員六名、他市からの転入者一名を迎え、会員相互の連携を図りつつ教頭としての資質の向上に努めている。

本教頭会では、本市の教育目標に則り、「豊かな人間性を育てる学校の創造」を目指し研修に取り組んでいる。

本年度の主な活動

- 四月 組織づくり・定例研修会
- 五月 市教頭会定例研修会
- 六月 市教頭会定例研修会
- 七月 市教頭会定例研修会
- 八月 全国教頭会研究大会参加
- 九月 市学校運営研修会
- 十月 市教頭会定例研修会
- 十一月 市教頭会定例研修会
- 十二月 市教頭会定例研修会
- 一月 市教頭会定例研修会
- 二月 市教頭会定例研修会
- 三月 市教頭会定例研修会
- 四月 組織づくり・定例研修会
- 五月 市教頭会定例研修会
- 六月 市教頭会定例研修会
- 七月 市教頭会定例研修会
- 八月 全国教頭会研究大会参加
- 九月 市学校運営研修会
- 十月 市教頭会定例研修会
- 十一月 市教頭会定例研修会
- 十二月 市教頭会定例研修会
- 一月 市教頭会定例研修会
- 二月 市教頭会定例研修会
- 三月 市教頭会定例研修会

猿島郡

猿島郡教頭会は、小学校七校、中学校三校、会員十一名で構成されている。本年度は、四名の新会員を迎え、「豊かな人間性と創造性をはぐむ学校をめざして」をテーマに、教頭としての資質の向上を図るため、研修の充実に努めている。

毎月開催する定例教頭研修会では、毎回テーマを決めて提案発表を行い、今日的教育課題への対応や、教頭としての実務力向上に向け、会員相互の研修が深まるように努めている。また、町教育委員会、校長会からの指導をいただきながら実践的な研修となるよう取り組んでいる。

本年度の主な活動

- 四月 郡教頭会総会
- 五月 郡定例教頭研修会
- 六月 郡定例教頭研修会
- 七月 郡定例教頭研修会
- 八月 郡定例教頭研修会
- 九月 郡定例教頭研修会
- 十月 郡定例教頭研修会
- 十一月 郡定例教頭研修会
- 十二月 郡定例教頭研修会
- 一月 郡定例教頭研修会
- 二月 郡定例教頭研修会
- 三月 郡定例教頭研修会

学校紹介

伝統を大切にし、新しいことに挑戦する

日立市立櫛形小学校

本校は、旧十王町が二〇〇四年日立市に合併し現在の校名に改称されました。今年で創立百三十九年目を迎えます。昔は、櫛形炭鉱があり、石炭を掘っていました。児童数は、現在九八〇名で県北一大きい学校です。本校の特色としては、環境教育に力を入れており、サケの孵化と稚魚の放流、ホタルの飼育と生息するビオトープづくり、十王川観察、その他に町探検、ジヨブウオッチング、米づくり、住みよい町づくりを目指す調査等体験活動の充実に努めています。さらに今年度は、日立市の環境資金の援助を受けて、環境委員会ですキッズ100 For Schoolの節電に取り組んでいます。子どもに環境教育を通して組織マネジメントのPDCAサイクルを体験的に身につけるプログラムです。学校内の節電をどのようにして行うかを子どもたちが考え、活動を行います。それを三ヶ月間取り組み、成果を上げると「国際認定証」が授与されます。これからも新しいことへの児童の挑戦は続きます。

授業を核とした学校づくり

牛久市立牛久第一中学校

本校は、昨年度創立五十周年を迎えた伝統と施設設備の充実を誇る学校である。本年度は「日々の授業づくりの中で互いに学び合える学習集団を育てる」という組織目標の下、「互いに学び合える学習集団」「互いにケアし合える生活集団」作りに取り組んでいる。

組織目標を達成するために大切にしているのは、授業参観である。日常の授業を同僚に開き生徒の学んでいる事実を互いに観察し合っている。特に月一度の学年を核とした授業研究では生徒は「どこで飽きてしまうのか」「どこでつまづいてしまうのか」「どこで学びはじめるのか」を語り合い、「生徒理解」「授業力の向上」「教師の同僚性の構築」に努めている。

自己の「分からなさ」に気づき「教えて」と他者に助けを求め自立する生き方につながっていく。「分からなさを共有し、聴き合い、学び合う授業を通して、自他を尊重し互いに関わりながらよりよく生きていく生徒を、全教職員で育てていきたいと考えている。

光きらめく自慢の生徒

坂東市立東中学校

本校は、北東に飯沼千拓の美田を望み、南西に将門由来の神山田をいたたく質実な気風あふれる学校である。

全校生徒一五〇名と小規模校ではあるが、その分、男女や先輩後輩の仲も良く、誰か困った生徒が居れば全員で助ける気概もある。授業に集中して臨む態度もすばらしく、和やかで落ち着いた学校である。

静寂の中、ページをめくる音のみが響く朝読書や黙働清掃、生徒会主体の体育祭や優心祭、全校生徒参加の朝の陸上練習など学校自慢も数多い。

本校の教育目標は、「明るく温かくさわやかに一人一人が光りきらめく東中学校」であるが、まさにそのような生徒一人一人が本校の最大の自慢である。地域の教育力も高く、毎年紙漉から行う和紙の卒業証書制作は、歴代のPTA会長等からなる東中会に賛助を頂いている。今年度は、地元消防団によるプールの清掃も行われた。

学校は今、大規模改修工事である。装いも新たに、益々充実した学校にしていきたい。

随想

旧中山道歩き

ひたちなか市立田彦小学校

田所 則夫

私は、運動大好き人間である。特に、歩いたり走ったりが好きなので、今もいろいろチャレンジしている。例えば、旧街道歩き（東海道、中山道）、日本百名山登り、古い町並み散歩、四国八十八番札所めぐり等々である。

どれもまだ途中だが、いつかは完歩したいと考えている。

先日は、旧街道歩きで中山道を歩いてきた。高崎の二つ先の安中宿から一つ先の信越線磯部駅まで歩く。距離にして十七km、四時間ほどの歩行となった。

今回は、安中宿周辺の安中城跡や、新島襄旧宅、その関連する教会等を巡ることができた。

ゴールの安中市磯部温泉は温泉マーク発祥の地で、遠くに奇岩の妙義山が遠望できた。

いつも寄り道だらけなので、ゴールの京都へ着くのはいつものことやのだが、楽しみが続くのもよいと思っている。

地域から得たもの

神栖市立土合小学校

大川 俊一

前任校神栖市立波崎東小学校での二年間。地域の方々より多くのことを学ばせてもらった。

一年目は東日本大震災。一一

〇名の児童しかいない学校に、震災当日八〇〇人が避難した。

夜になっても救援物資が届かない。そこで、区長さんをはじめ多くの方々で炊き出しを行った。深夜、八〇〇個のおにぎりを作り上げ、避難者に一個ずつ手渡した。何度も続く余震の恐怖に加え、ここは、教室からでも太平洋、利根川、銚子が一望できる土地。だからこそ、津波に関しての恐怖も、言い表せないほどである。しかし、みなで声かけ合い励まし合っていた地域の力には、自分も励まされた。

二年目は、統廃合による閉校である。一時一六〇〇名を超えた波崎東小を二校に分離して四〇年が経った。少子化の影響で、分離した学校がまた一緒になることになったのである。一言で四〇年間といっても、いろいろな思いがあり、いろいろな方々から話を聞く機会が得られたが、すべてが学校に対する熱い思い

であった。

学校に携わるものとして、地域の方々の思いに寄り添うことの大切さを再認識した二年間であつた。

信州の思い出

石岡市立石岡小学校

八重樫 通

小さい頃から信州の自然に憧れ、学生時代を信州で過ごした。

北アルプスの蝶ヶ岳では、息も絶え絶えに峠に辿り着き、やつとの思いでテントを張った。真夜中にふと目覚め、周囲の雪を溶かしてインスタントコーヒを飲みながら、空を見上げると、まるで自分が星空の中に立っているような錯覚にとらわれた。

しかし、今学校経営にかかわる中で、より鮮明に思い出すのは、信濃教育のすごさである。たまたま教育実習で訪れた学校の図工では、刃物の扱いをどう指導するかという考察だけで厚さ一センチもある指導案が配られた。そのときは若気のいたりで生意気な質問もした。今にして思えば、教育実習生のためにあそこまで準備してくれた先生に何と不遜な態度であつたらう。あのときは分からなかつた信

対話の大切さ

龍ヶ崎市立城ノ内中学校

鈴木 宏一

濃教育のすごさは何なのかという自問の答えは、「教育理念」ではないかと考える。今自分は校長の教育理念を柱に、教頭として職員をまとめていえると言えらるだろうか。自戒の念をもちながら当時を思い起こしている。

学習指導要領が全面实施になり、改訂まで様々な場で検討がなされ、各種調査からも課題が提示されました。当時、PISA調査でトップのフィンランドの教育が話題となりました。

文章読解では、単に文章の内容を読み取るのとどまるのではなく、じっくりと文章と向き合い、内容から複数の課題を見付け、仲間との対話によりその課題解決策を見出す過程を取り入れることもしているそうです。例えば、スイミーという小二の教材で、内容理解後に日本とフィンランドの五年生の児童に「この物語から読み取れる教訓は？」という問いかけをしたところ、「協力することが必要だ。」と答えた日本の児童、「集団には指導者が必要である。」とフ

『取り込む』こと

守谷市立松ヶ丘小学校

塚本 正人

教頭としての二年間を振り返ると、毎日の仕事で『取り込む』ことの連続だったように思う。

『取り込む』とは、学校の向かうべき方向や取組の中に、児童・保護者・地域・関係機関・教職員等の力を結集し生かすための活動を指している。微力な私にとつては、これが容易なことではなかつたが、教頭としてやりがいを感じる瞬間（ひととき）にもなつてきた。

この『取り込む』仕事の中には、目指す方向に進んだこともあれば、思いもよらない方向へと進みそうになり、周囲に助け

ていた、だいたこともあつた。それらすべてのことが今の私の財産であり、教頭として向かうべき指針となっている。

思えば三十代の頃、当時仕えた校長から、「塚本君、一生懸命はだれにでもできるよ。」と度々言われたことがある。ミドルリーダーの自覚と役割の大切さを示されたのだと思う。すばらしい上司に巡り会えたことに改めて感謝している。

また明日から、私にとつての『取り込む』仕事が始まる。教頭として校長の意を体して、しなやかな心をもって課題の解決を目指していきたい。

編集後記

教頭会会報一五九号をお届けいたします。県北地区が担当させて頂いたできました。

ご多用にもかかわらず、原稿をお寄せいただき誠にありがとうございました。お陰様で無事に発行することができました。皆様方のご協力に感謝申し上げます。

なお、第一五八号の根本重文会長の役職名が副会長となつておりました。訂正をお願いいたします。